

I 人口・世帯数の概要

1 概要

令和3年10月1日現在の住民基本台帳に基づく浜松市の総人口は796,829人で、前年に比べ3,931人(0.49%)減少している。世帯数は347,652世帯で、前年に比べ2,920世帯(0.85%)増加している。

性別で見ると、男性が396,947人(構成比49.8%)で、前年に比べ2,061人(0.52%)減少している。女性は399,882人(同50.2%)で、前年に比べ1,870人(0.47%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.3で、前年と同様であった。

1世帯当たりの平均人員は2.29人で、前年と比べ0.03人減少している。

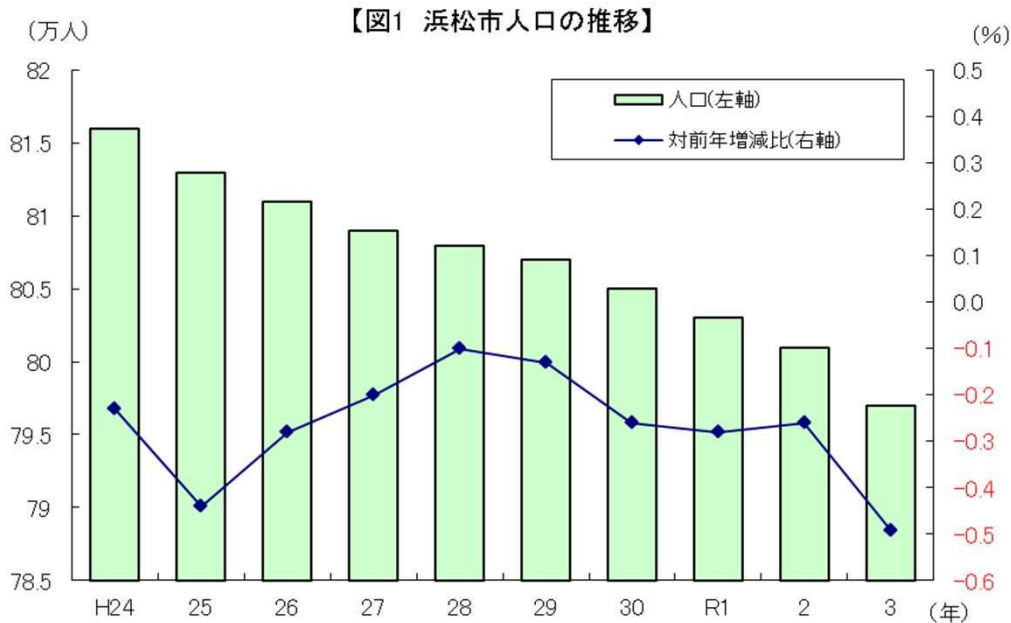


表1 浜松市人口・世帯数の推移

年	総		人			口		日 本	
	総 数	前年比%	男	女	世帯数	総 数	前年比%		
平成 24年	816,490	△ 0.23	406,168	410,322	320,171	792,334	△ 0.05		
25	812,888	△ 0.44	404,343	408,545	321,882	791,400	△ 0.12		
26	810,642	△ 0.28	403,298	407,344	324,478	789,670	△ 0.22		
27	809,065	△ 0.19	402,309	406,756	327,467	788,190	△ 0.19		
28	808,249	△ 0.10	402,184	406,065	330,765	786,831	△ 0.17		
29	807,199	△ 0.13	401,711	405,488	333,930	784,658	△ 0.28		
30	805,110	△ 0.26	400,835	404,275	337,238	781,147	△ 0.45		
令和 元年	802,856	△ 0.28	399,971	402,885	340,896	777,581	△ 0.46		
2	800,760	△ 0.26	399,008	401,752	344,732	775,373	△ 0.28		
3	796,829	△ 0.49	396,947	399,882	347,652	771,605	△ 0.49		

表2 浜松市人口・世帯数等

区 分	令 和 2 年 10 月 1 日						前年比%	
	総 数	男	女	性比	世帯数	1世帯当たり平均人員	総 数	前年比%
総 人 口	800,760	399,008	401,752	99.3	344,732	2.32	796,829	△ 0.49
日本人住民	775,373	386,464	388,909	99.4	332,478	2.33	771,605	△ 0.49
外国人住民	25,387	12,544	12,843	97.7	12,254	2.07	25,224	△ 0.64

2 日本人住民数と外国人住民数

令和3年10月1日現在の日本人住民数は771,605人で、前年に比べ3,768人(0.49%)減少している。世帯数は335,547世帯で、3,069世帯(0.92%)増加している。

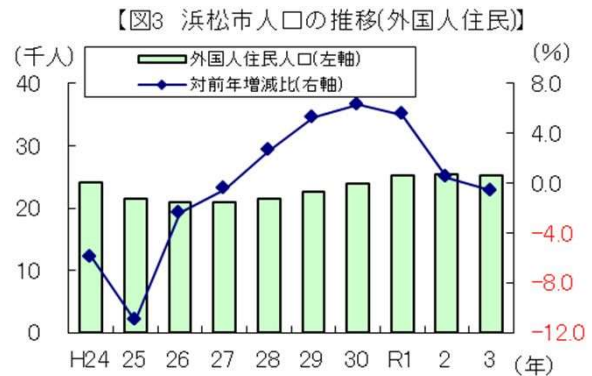
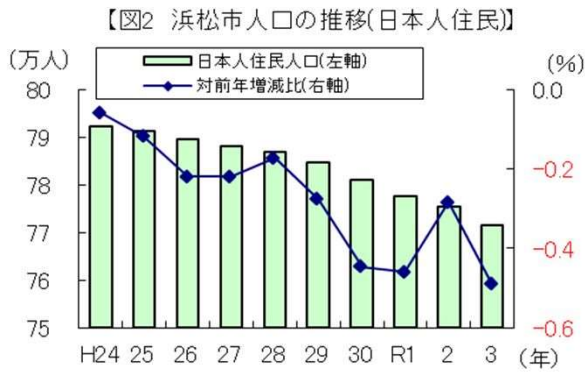
性別でみると、男性が384,535人(構成比49.8%)で、前年に比べ1,929人(0.50%)減少している。女性は387,070人(同50.2%)で、前年に比べ1,839人(0.47%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.3で、前年に比べ0.1ポイント減少している。

1世帯当たりの平均人員は2.30人で、前年に比べ0.03人減少している。

令和3年10月1日現在の外国人住民数は25,224人で、前年に比べ163人(0.64%)減少している。世帯数も12,105世帯で、前年に比べ149世帯(1.22%)減少している。

性別でみると、男性が12,412人(構成比49.2%)で、前年に比べ132人(1.05%)減少、女性は12,812人(同50.8%)で、前年に比べ31人(0.24%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は96.9で、前年に比べ0.8ポイント減少している。

1世帯当たりの平均人員は2.08人で、前年に比べ0.01人増加している。



人 住 民			外 国 人		人 住 民		
男	女	世帯数	総 数	前年比%	男	女	世帯数
394,282	398,052	309,078	24,156	5.95	11,886	12,270	11,093
393,864	397,536	312,365	21,488	△ 11.04	10,479	11,009	9,517
393,052	396,618	315,192	20,972	△ 2.40	10,246	10,726	9,286
392,182	396,008	318,343	20,875	△ 0.46	10,127	10,748	9,124
391,796	395,035	321,240	21,418	2.60	10,388	11,030	9,525
390,767	393,891	323,664	22,541	5.24	10,944	11,597	10,266
389,077	392,070	326,104	23,963	6.31	11,758	12,205	11,134
387,419	390,162	328,710	25,275	5.48	12,552	12,723	12,186
386,464	388,909	332,478	25,387	0.44	12,544	12,843	12,254
384,535	387,070	335,547	25,224	△ 0.64	12,412	12,812	12,105

令 和 3 年 10 月 1 日									
男	女		性比	世帯数	1世帯当たり 平均人員	面積km ²	人口密度		
	前年比%	前年比%							
396,947	△ 0.52	399,882	△ 0.47	99.3	347,652	0.85	2.29	1,558.06	511
384,535	△ 0.50	387,070	△ 0.47	99.3	335,547	0.92	2.30	-	-
12,412	△ 1.05	12,812	△ 0.24	96.9	12,105	△ 1.22	2.08	-	-

3 行政区別人口

行政区別に人口・世帯数をみると、人口・世帯数ともに最も多いのは中区で、236,086人(構成比29.6%)、113,253世帯(同32.6%)である。また、人口・世帯数ともに最も少ないのは天竜区で、26,959人(同3.38%)、12,181世帯(同3.50%)である。

人口密度も同様に、最も高いのは中区の5,324人/km²、最も低いのは天竜区の29人/km²である。

性比(女性を100とした場合の男性の割合)は、南区が102.0で最も高く、続く東区も100.4で、男性の割合が高い。性比が最も低いのは、天竜区の94.3である。

【図4 行政区別人口・世帯数(構成比)】

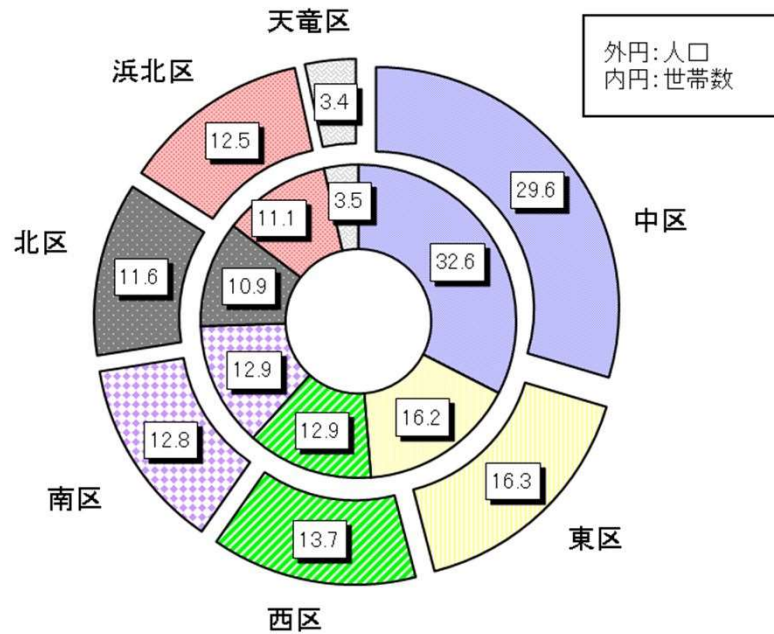


表3 区別の人口・世帯数等

区別	令和2年10月1日		令和3年10月1日										
	総数	世帯数	総数	前年比%	男	女	性比	世帯数	前年比%	1世帯当たり平均人員	人口構成比	面積km ²	人口密度
中区	237,213	112,524	236,086	△ 0.48	116,997	119,089	98.2	113,253	0.65	2.08	29.6	44.34	5,324
東区	130,497	55,460	130,252	△ 0.19	65,267	64,985	100.4	56,161	1.26	2.32	16.3	46.29	2,814
西区	109,612	44,631	108,842	△ 0.70	54,224	54,618	99.3	44,913	0.63	2.42	13.7	114.71	949
南区	102,492	44,122	102,174	△ 0.31	51,586	50,588	102.0	44,678	1.26	2.29	12.8	46.84	2,181
北区	93,339	37,665	92,726	△ 0.66	46,002	46,724	98.5	38,002	0.89	2.44	11.6	295.54	314
浜北区	100,022	38,076	99,790	△ 0.23	49,790	50,000	99.6	38,464	1.02	2.59	12.5	66.50	1,501
天竜区	27,585	12,254	26,959	△ 2.27	13,081	13,878	94.3	12,181	△ 0.60	2.21	3.4	943.84	29

4 年齢別人口

年齢別に人口をみると、前年に比べ、年少人口（15歳未満）は101,313人（同12.7%）で2,185人、生産年齢人口（15歳～64歳）は471,500人（同59.2%）で3,424人それぞれ減少しているのに対し、老年人口（65歳以上）は224,016人（構成比28.1%）で1,678人増加している。

行政区別に構成比をみると、年少人口が最も高いのは浜北区（14.9%）で、最も低いのは天竜区（7.4%）である。生産年齢人口が最も高いのは中区（61.0%）で、最も低いのは天竜区（46.6%）である。老年人口が最も高いのは天竜区（46.0%）で、最も低いのは東区（26.1%）である。

表4 年齢3区分別人口

区 分	令和2年	令和3年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口 (15歳未満)	103,498	101,313	28,776	17,540	13,770	12,614	11,751	14,863	1,999
構成比(%)	12.9	12.7	12.2	13.5	12.7	12.3	12.7	14.9	7.4
生産年齢人口 (15歳～64歳)	474,924	471,500	143,918	78,774	64,008	61,423	52,644	58,179	12,554
構成比(%)	59.3	59.2	61.0	60.5	58.8	60.1	56.8	58.3	46.6
老年人口 (65歳以上)	222,338	224,016	63,392	33,938	31,064	28,137	28,331	26,748	12,406
構成比(%)	27.8	28.1	26.9	26.1	28.5	27.5	30.6	26.8	46.0

年齢構成指数をみると、年少人口指数は21.5（前年21.8）で前年に比べ減少している。老年人口指数は47.5（同46.8）、従属人口指数は69.0（同68.6）、老年化指数は221.1（同214.8）で、前年に比べ上昇している。老年化指数の上昇が著しく、高齢化が進んでいることが分かる。

行政区別にみると、老年人口指数・従属人口指数において天竜区が突出して高く、生産年齢人口が少ないことを示している。老年化指数は全ての区で150を超えており、老年人口が年少人口を上回っていることが分かる。

【人口の年齢構成の特徴を表す指数】

- 年少人口指数（生産年齢人口に占める年少人口の割合）

$$\frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 老年人口指数（生産年齢人口に占める老年人口の割合）

$$\frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 従属人口指数（生産年齢人口に占める年少人口と老年人口の和）

$$\frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 老年化指数（年少人口に占める老年人口の割合）

$$\frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

【図5 年齢3区分別人口(構成比)】

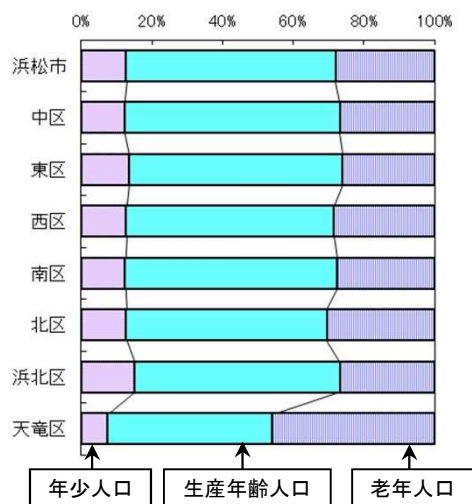


表5 年齢構成指数

区 分	令和2年	令和3年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口指数	21.8	21.5	20.0	22.3	21.5	20.5	22.3	25.5	15.9
老年人口指数	46.8	47.5	44.0	43.1	48.5	45.8	53.8	46.0	98.8
従属人口指数	68.6	69.0	64.0	65.3	70.0	66.3	76.1	71.5	114.7
老年化指数	214.8	221.1	220.3	193.5	225.6	223.1	241.1	180.0	620.6

日本人住民の平均年齢は47.17歳で、前年の46.86歳より0.31歳上昇している。男女別にみると、男性は45.66歳(前年45.34歳)、女性は48.67歳(同48.36歳)で、ともに前年に比べ上昇している。外国人住民の平均年齢は34.90歳で、前年の34.29歳より0.61歳上昇している。

男女別にみると、男性は33.70歳(前年33.07歳)、女性は36.07歳(同35.48歳)で、ともに前年に比べ上昇している。

行政区別にみると、日本人住民の平均年齢は、前年と同様すべての区において上昇しており、最も上昇幅が大きかったのは西区の0.41歳で、最も上昇幅が小さかったのは中区の0.29歳であった。外国人住民の平均年齢は、前年に比べ、すべての区において上昇している。

表6 平均年齢

【日本人住民】

区 別	令 和 2 年			令 和 3 年		
	男	女	合計	男	女	合計
浜 松 市	45.34	48.36	46.86	45.66	48.67	47.17
中 区	45.21	48.38	46.81	45.50	48.67	47.10
東 区	44.24	46.88	45.56	44.55	47.18	45.86
西 区	45.58	48.58	47.09	45.99	48.98	47.50
南 区	45.34	48.40	46.86	45.64	48.71	47.16
北 区	46.31	49.44	47.89	46.64	49.76	48.21
浜 北 区	44.14	46.61	45.38	44.43	46.98	45.71
天 竜 区	54.80	58.98	56.96	55.23	59.25	57.30

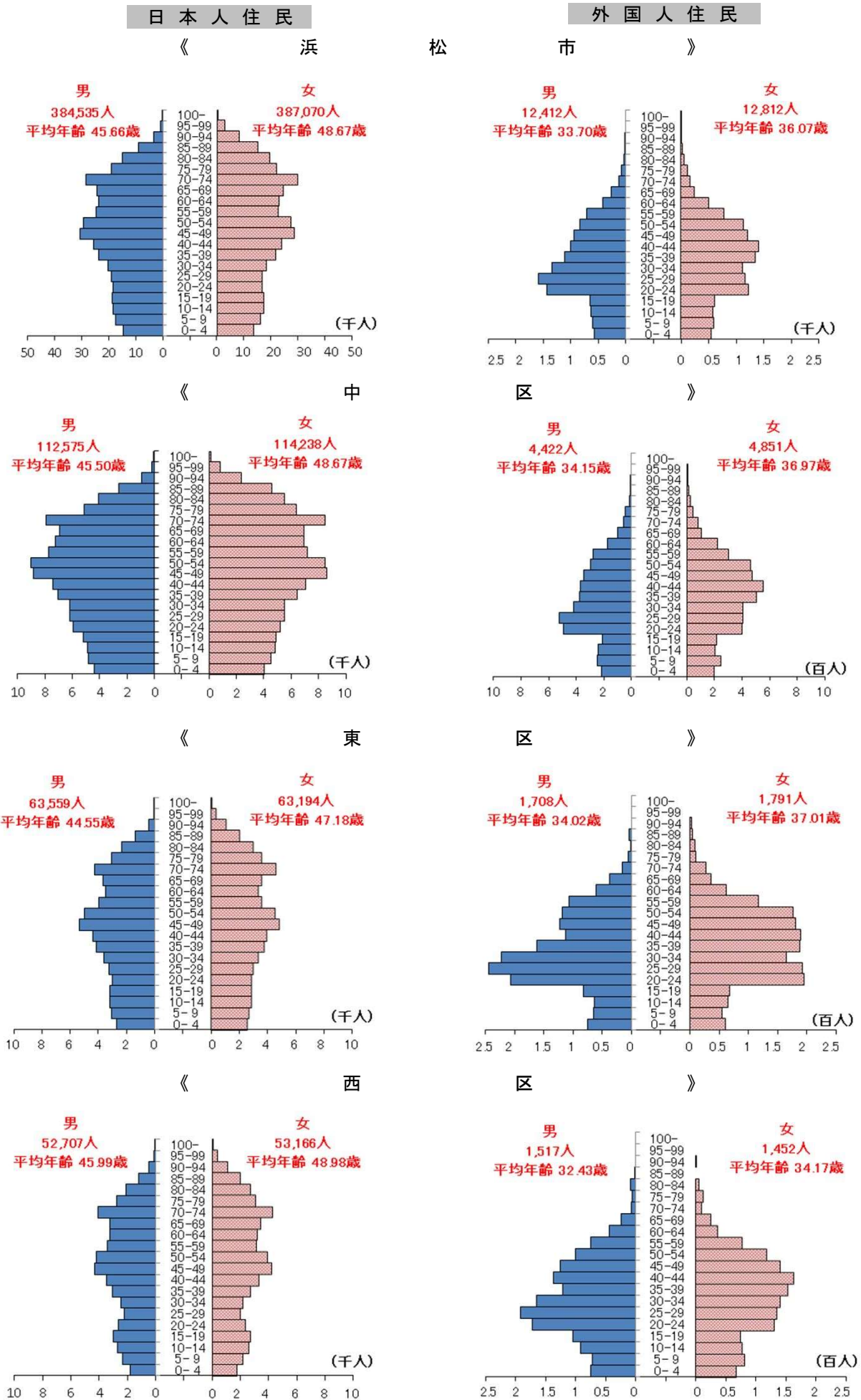
【外国人住民】

区 別	令 和 2 年			令 和 3 年		
	男	女	合計	男	女	合計
浜 松 市	33.07	35.48	34.29	33.70	36.07	34.90
中 区	33.46	36.25	34.91	34.15	36.97	35.62
東 区	33.47	36.72	35.11	34.02	37.01	35.55
西 区	32.02	33.96	32.97	32.43	34.17	33.28
南 区	32.72	34.96	33.82	33.40	35.53	34.45
北 区	32.11	34.15	33.11	33.13	35.23	34.16
浜 北 区	33.06	33.85	33.46	33.68	34.31	34.00
天 竜 区	38.00	38.51	38.27	37.44	40.28	38.89

人口ピラミッド(5歳階級)は、日本人住民において、40歳代後半(昭和47～51年生)と、70歳代前半(昭和22～26年生)の人口が多いことを表している。外国人住民は、20歳代後半の人口が最も多い。

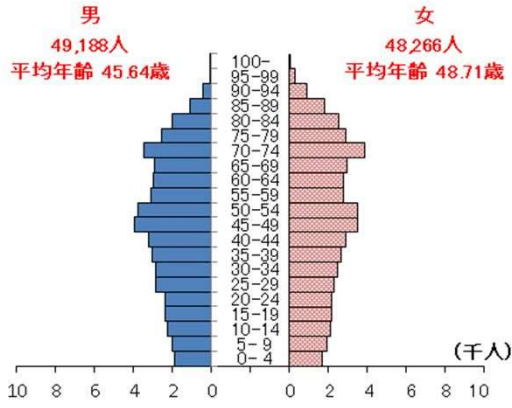
行政区別にみても概ねその傾向があるが、特徴的な区もある。南区と北区の日本人住民人口は、他区に比べ年齢階級による凹凸が少ない。天竜区の日本人住民においては、第二次ベビーブーム世代の凸が見られない。

【図6 人口ピラミッド(5歳階級)】



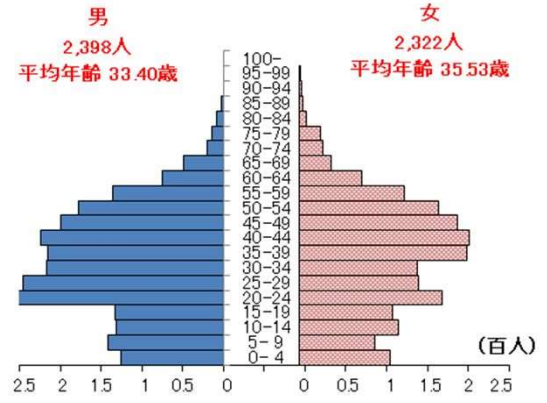
日本人住民

《 南 区 》

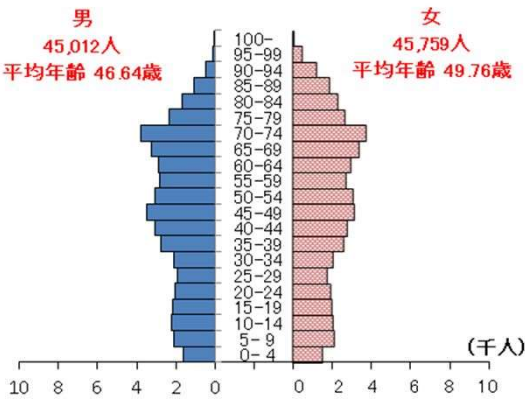


外国人住民

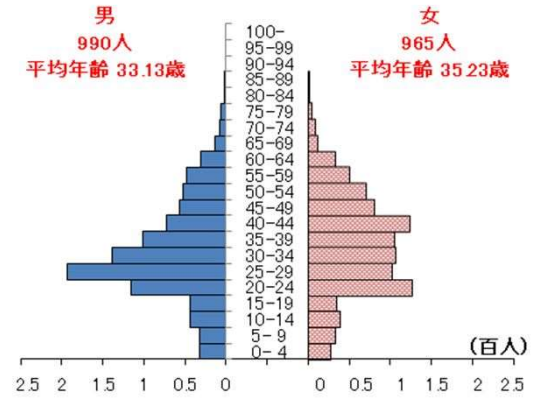
《 南 区 》



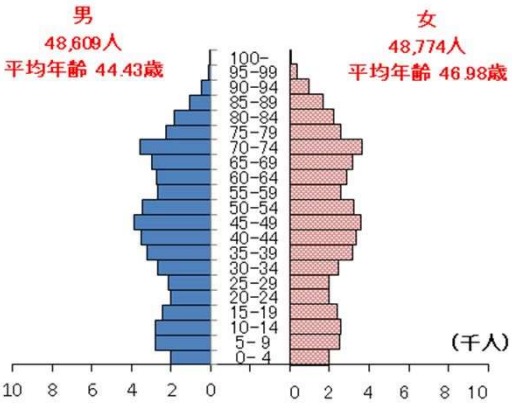
《 北 区 》



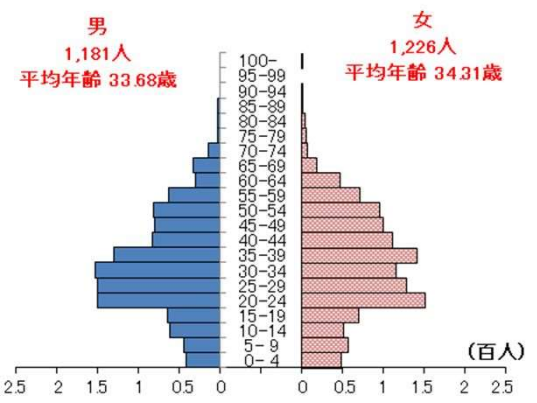
《 北 区 》



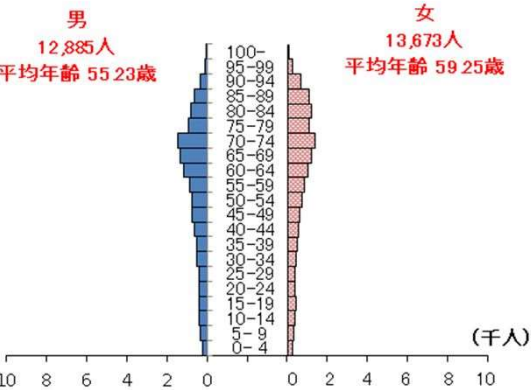
《 浜 北 区 》



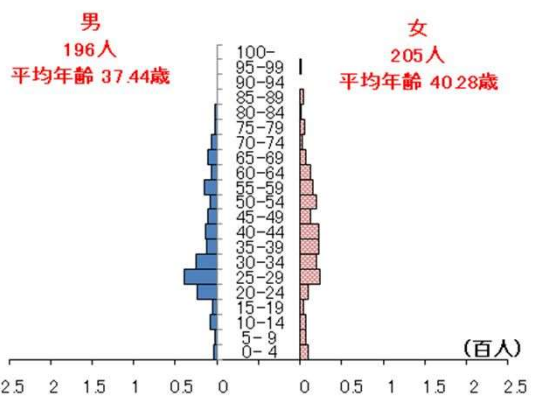
《 区 》



《 天 竜 区 》



《 区 》



5 人口動態(令和3年1月～令和3年12月)

(1) 自然動態

令和3年1月から令和3年12月までの自然動態をみると、出生数は5,355人、出生率(人口1,000人当たりの出生数)は6.72‰(パーミル)である。これに対し、死亡数は8,859人、死亡率(人口1,000人当りの死亡数)は11.12‰で、両者の差である自然増減数は3,504人減、自然増減率(人口1,000人当たりの自然増減数)は4.40‰減である。

前年と比較すると、出生数は273人減少し、死亡数は341人増加している。自然増減数は614人減で、13年連続の減少である。

行政区別にみると、出生数は中区、東区、南区の順に多く、死亡数は中区、東区、北区の順に多い。自然増減数は東区、浜北区の順に多く、中区と北区では大きく減少している。

出生率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。死亡率が最も高いのは天竜区、最も低いのは東区であり、自然増減率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。

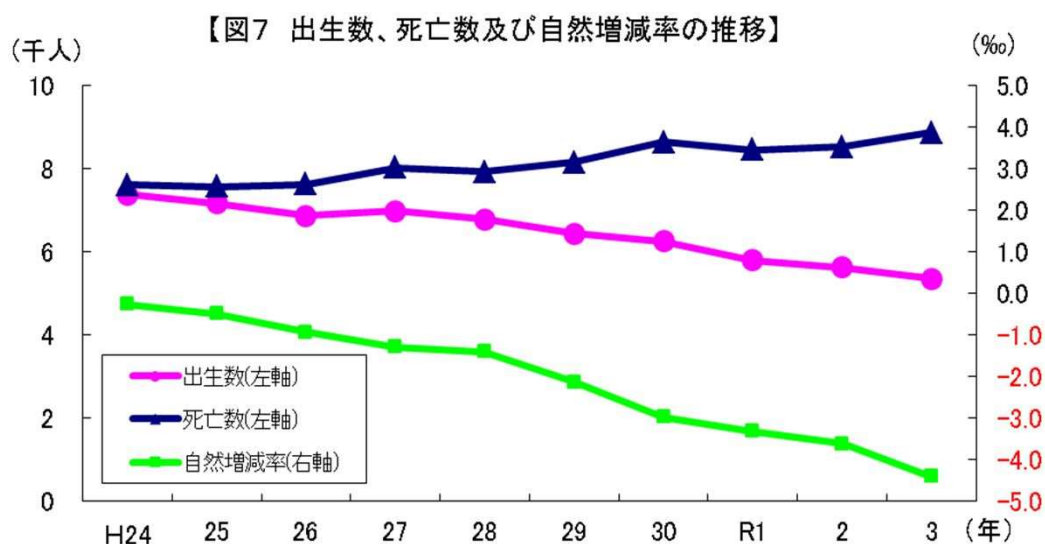


表7 自然動態

区 別	出 生			死 亡			自 然 増 減		
	総 数	出生率(‰)	前年比(%)	総 数	死亡率(‰)	前年比(%)	総 数	自然増減率(‰)	前年比(%)
浜松市	5,355	6.72	△ 4.85	8,859	11.12	4.00	△ 3,504	△ 4.40	△ 21.25
中 区	1,739	7.37	0.29	2,531	10.72	2.39	△ 792	△ 3.35	△ 7.32
東 区	1,017	7.81	△ 7.63	1,294	9.93	3.44	△ 277	△ 2.13	△ 84.67
西 区	647	5.94	1.73	1,203	11.05	5.90	△ 556	△ 5.11	△ 11.20
南 区	692	6.77	△ 9.78	1,051	10.29	5.84	△ 359	△ 3.51	△ 58.85
北 区	496	5.35	△ 8.32	1,208	13.03	4.77	△ 712	△ 7.68	△ 16.34
浜北区	685	6.86	△ 10.81	1,018	10.20	8.99	△ 333	△ 3.34	△ 100.60
天竜区	79	2.93	△ 2.47	554	20.55	△ 4.32	△ 475	△ 17.62	4.62
令和2年	5,628	7.03	△ 2.81	8,518	10.64	0.84	△ 2,890	△ 3.61	8.81

(2) 社会動態

令和3年1月から令和3年12月までの社会動態をみると、転入者数は20,122人、転入率(人口1,000人当たりの転入者数)は25.25‰(パーミル)である。これに対し、転出者数は20,813人、転出率(人口1,000人当たりの転出者数)は26.12‰で、両者の差である社会増減数は691人減少となり、社会増減率(人口1,000人当たりの社会増減数)は0.87‰減である。

前年と比較すると、転入者数は1,467人、転出者数は447人とともに減少となった。社会増減数は1,020人減少となっている。

行政区別にみると、転入者数・転出者数ともに中区、東区の順に多い。社会増減数は中区、東区、天竜区の順に増加している。転入率・転出率ともに最も高いのは中区であり、社会増減率は中区、東区、南区の順に高い値となっている。

自然動態と社会動態を比較すると、本年は転出者数が多く、社会増減数が691人減少し、自然増減数も4,195人減少したことにより、引き続き人口は減少している。

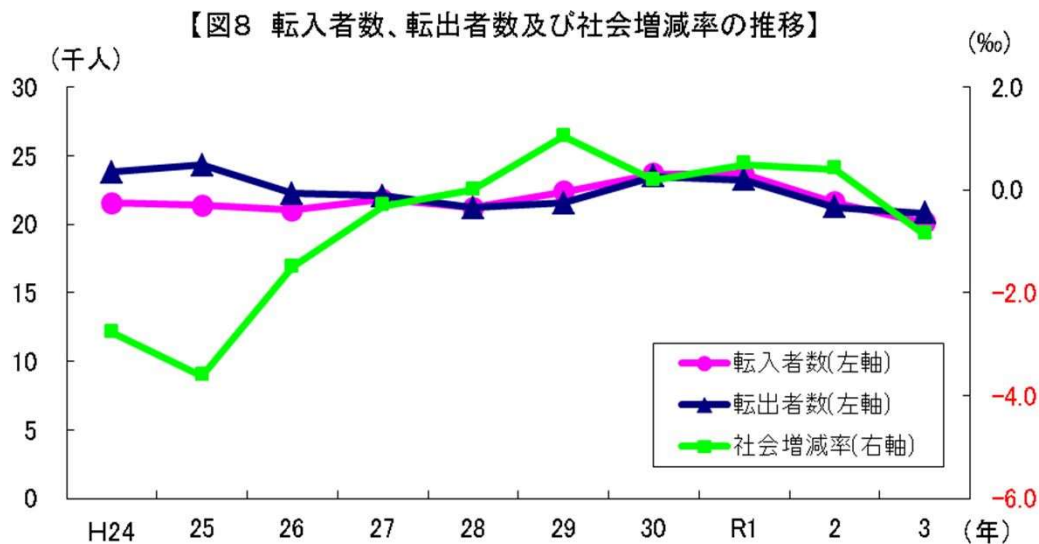


表8 社会動態(市外移動)

区 別	転 入			転 出			社 会 増 減		
	総 数	転入率(‰)	前年比(%)	総 数	転出率(‰)	前年比(%)	総 数	社会増減率(‰)	△は減少率前年比(%)
浜松市	20,122	25.25	△ 6.80	20,813	26.12	△ 2.10	△ 691	△ 0.87	△ 310.03
中 区	8,282	35.08	△ 4.03	8,107	34.34	△ 2.95	175	0.74	△ 36.82
東 区	3,193	24.51	△ 0.37	3,274	25.14	2.92	△ 81	△ 0.62	△ 437.50
西 区	2,308	21.21	△ 16.92	2,632	24.18	△ 8.07	△ 324	△ 2.98	△ 281.18
南 区	2,556	25.02	△ 9.71	2,668	26.11	△ 2.81	△ 112	△ 1.10	△ 230.23
北 区	1,754	18.92	△ 8.79	1,901	20.50	△ 2.96	△ 147	△ 1.59	△ 308.33
浜北区	1,715	17.19	△ 6.74	1,830	18.34	5.48	△ 115	△ 1.15	△ 210.58
天竜区	314	11.65	△ 18.02	401	14.87	△ 5.42	△ 87	△ 3.23	△ 112.20
令和2年	21,589	26.96	△ 8.68	21,260	26.55	△ 8.51	329	0.41	△ 18.36

6 人口移動状況(住民基本台帳・令和3年1月～令和3年12月)

令和3年1月から令和3年12月までの人口移動状況をみると、東海地方での出入りが最も多く、転入者は9,577人(構成比52.6%)、転出者は9,094人(同49.2%)である。以下、関東地方、近畿地方と続いている。

東海地方を県別にみると、転入者・転出者ともに最も多いのは静岡県で、東海地方における移動者の約6割を占めている。関東地方においては、転入者・転出者ともに東京都、神奈川県の方に多い。

大都市(東京都特別区部及び政令指定都市)別にみると、転入者は東京都特別区、静岡市、名古屋市の順に多く、転出者は東京都特別区、名古屋市、静岡市の順に多い。

全国でみると268人の転出超過であるが、東海、中国、四国に対しては転入超過である。東海地方においては483人の転入超過で、全ての県において転入超過である。

表9 地方別転入・転出者数

地方	転 入				転 出				転 入 超 過 数 (△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	18,221	100.0	10,536	7,685	18,489	100.0	10,728	7,761	△ 268	△ 192	△ 76
北海道	249	1.4	135	114	310	1.7	201	109	△ 61	△ 66	5
東北	392	2.2	226	166	400	2.2	262	138	△ 8	△ 36	28
関東	4,241	23.3	2,546	1,695	5,174	28.0	2,911	2,263	△ 933	△ 365	△ 568
北陸甲信越	749	4.1	445	304	749	4.1	457	292	0	△ 12	12
東海	9,577	52.6	5,412	4,165	9,094	49.2	5,242	3,852	483	170	313
近畿	1,323	7.3	756	567	1,434	7.8	833	601	△ 111	△ 77	△ 34
中国	706	3.9	435	271	347	1.9	209	138	359	226	133
四国	159	0.9	91	68	125	0.7	79	46	34	12	22
九州・沖縄	825	4.5	490	335	856	4.6	534	322	△ 31	△ 44	13

注1) 住民基本台帳人口移動報告年報(基本集計)(総務省統計局)による。

注2) 東北地方:青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方:茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北陸甲信越地方:新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県

近畿地方:滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方:鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方:徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄地方:福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注3) 都道府県別・大都市別の転入・転出者数は、統計表6に掲載。

表10 東海地方県別転入・転出者数

県	転 入				転 出				転 入 超 過 数 (△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	9,577	100.0	5,412	4,165	9,094	100.0	5,242	3,852	483	170	313
静岡県	5,704	59.6	3,216	2,488	5,323	58.5	3,056	2,267	381	160	221
岐阜県	367	3.8	212	155	317	3.5	194	123	50	18	32
愛知県	3,159	33.0	1,779	1,380	3,152	34.7	1,806	1,346	7	△ 27	34
三重県	347	3.6	205	142	302	3.3	186	116	45	19	26